

(仮称)北野沢風力発電事業更新計画環境影響評価準備書に対する
環境の保全の見地からの知事意見

1. 総論

(1) 青森県自然・地域と再生可能エネルギーとの共生制度を踏まえた対応

現在、県が検討を進めている「青森県自然・地域と再生可能エネルギーとの共生制度」では、自然環境、景観、歴史、文化等を保全すべき地域を指定（ゾーニング）することとしていることから、同制度を踏まえて今後の事業計画を検討すること。

また、同制度では、環境影響評価手続後における地域との合意形成に係る手続が規定されることから、当該手続を適切に行うこと。

(2) 事後措置等

事後調査及び環境監視を適切に実施し、その結果を踏まえ、必要に応じて、追加的な環境保全措置を講ずること。また、当該措置の具体化に当たっては、措置の内容が十分なものとなるよう、それまでの調査結果及び専門家等の助言を踏まえて、客観的かつ科学的に検討すること。

(3) 地域住民等への説明

対象事業実施区域及びその周辺における関係法令等による規制状況を踏まえて、関係機関等との調整を十分に行い、地域住民等に対し丁寧かつ十分な説明や意見交換を行うこと。

2. 各論

(1) 騒音

建設機械の稼働に伴う騒音の予測結果において、騒音レベルが17～19デシベル増加すると予測されており、現況からの増分が大きく、生活環境に影響を及ぼすおそれがあることから、環境監視の実施を検討すること。

(2) 風車の影

本事業の予測結果及び他事業との累積的な影響の予測結果の双方において、参照した指針値である年間8時間を超過している住宅が複数あることから、風力発電設備の配置の見直し等を検討した上で、改めて予測及び評価を行うこと。

(3) 動物

ア コウモリ類について、以下の理由によりバットストライクの発生する可能性が高いことから、風力発電設備の配置の見直しや現地調査結果に基づいた施設の稼働制限を行う等の適切な環境保全措置を検討すること。

- ①バットディテクターによる調査等では、風力発電設備 1、3 及び 4 号機付近において重要な種の生息が確認されている。
- ②音声モニタリング調査では、全地点でカットイン風速以上の風速時においても確認回数が多い。
- ③ヒナコウモリ及びコウモリ目（10～30kHz）について、風況観測塔 50m 地点における音声モニタリング調査において通過事例が確認されたこと、バットストライク調査において死骸が確認されたことから、ブレード等への接触の可能性があると予測されている。

イ コウモリ類の事後調査について、バットストライクの実態をよりの確に把握できるようにするため、専門家から十分意見を聴いた上で、調査の頻度や範囲及び方法について再検討すること。

ウ 希少猛きん類の調査において、複数の猛きん類が対象事業実施区域内を高度Mで飛翔しているのが確認されていることから、バードストライクの発生に十分注意すること。特にオジロワシ及びクマタカは、他の猛きん類と比較して年間予測衝突数が多いことから、風力発電設備の配置の見直しやこれらの種の活動が活発な時期に施設の稼働制限を行う等の適切な環境保全措置を検討すること。

(4) 生態系

対象事業実施区域の周辺において、生態系の上位性注目種であるクマタカの営巣が確認されており、同区域のほぼ全域が本種の高利用域となっている。本種への影響は生態系全体に影響を及ぼすおそれがあることから、適切な環境保全措置を検討するとともに、繁殖への影響について事後調査の実施を検討すること。